

# 被害者意識の社会化—HSP（繊細な人）という自己 主張をめぐって—

近年、HSP（ハイリー・センシティブ・パーソンの略称）という言葉がメディアや SNS でよく見かけられるようになった。1996 年にアメリカの心理学者エレイン・アーロンによって「敏感すぎる人」を意味する HSP という概念についての書籍が出版された。書籍やテレビなどを通して HSP 概念は日本国内にも徐々に浸透しはじめた。HSP とは、本来の学術的な意味合いでは、感覚処理感受性（SPS）が高い人を指し、強い刺激や他者の気分に敏感であり、環境や物事に対して敏感に反応するとされている。他方で、自閉スペクトラム症（ASD）や心的外傷後ストレス障害（PTSD）、適応障害、統合失調症など他の疾患でも見られるが、これらは HSP とは異なる性質を持つと考えられ、HSP は疾患によるものではないと考えられる。HSP ブームに伴って、一部の HSP 自認者による過度に自己愛的なふるまいや科学的な根拠のない医療を高額で提供する精神科クリニックの存在、HSP 専門カウンセラー資格を提供する資格ビジネスや HSP を自称する人をターゲットにしたカルト団体やマルチ商法の勧誘といった問題が目立つようになった。HSP 自認者が苦しんでいるという個人的主張は社会にいかなる影響を及ぼしているのかを明らかにしていく。

研究を通して、今回 20 代を中心にアンケート調査を行ったが、HSP という言葉の認識はあったが、本来の意味の理解や、科学的根拠のない情報による錯覚などの回答を得られた。HSP は自己啓発系の論説であり、マルチ商法やカルト団体の参入あるいは、占いや性格診断と大差ない。HSP 自認者やそうではない利害関係者以外の人々も犠牲者にならないように客観性を維持しなければならない。HSP という不確定な情報が多い自己啓発系の論説は、まだまだ引き続き研究が必要であると考えられる。更なる HSP による学術的な情報の発展に期待が求められる。